

## 「事業の概要及び測量等の実施に関する説明会」質疑応答の概要 (平成21年12月4日(金) 狛江市立狛江第五小学校)

本資料は平成21年12月4日(金) 狛江市立狛江第五小学校で開催された「事業の概要及び測量等の実施に関する説明会」での質疑応答の概要を国土交通省東京外かく環状国道事務所が取りまとめたものです。

### 質問者

- ・ 地質調査の実施箇所および実施時期はどうか。
- ・ 地質調査結果を公表すべきではないか。

### 回答者

(国)

- ・ 地質調査のうち、ボーリング調査は全線で約200m間隔で、公園などの公共用地において実施予定である。公園などの適切な場所が無い場合は、公道で物理探査を実施する予定である。
- ・ 物理探査は、測定器を道路に置き、地盤の微振動を計測し硬い地層の深さを確認する方法である。
- ・ 地質調査の実施時期は、来年1月から3月末までを予定している。詳細は、近隣の方々にチラシなどで案内する予定である。ただし、天候不順により調査期間が変更となる場合がある。
- ・ 調査結果は、分かりやすく整理し情報提供する予定である。

### 質問者

- ・ 大深度地下の計画であれば、ルートは直線にすべき。なぜ当初計画通りのルートになっているのか。

### 回答者

(国)

- ・ 昭和41年より長年にわたり権利制限をかけており、いずれ外環ができることを前提に生活をなされている方々が多数おられる。また、土地の買い取り要望があることや土地の利用状況などを考えて、当初の都市計画ルートを基本とした。

### 質問者

- ・ 井戸調査の実施範囲および実施方法はどうか。
- ・ 工事で井戸が涸れた場合の補償対応はどうか。

### 回答者

(国)

- ・ 今回の井戸調査においては、計画地内および計画地に部分的にでも入っている可能性があるお宅を対象として範囲を設定している。

- ・ 井戸調査の実施方法は、井戸の有無を各戸にお聞きし、井戸が有るお宅は井戸の水位や深さなどを調査する予定である。
- ・ 工事で万一、井戸涸れなどが発生した場合には、国の規定に基づき適切に対応する。

#### 質問者

- ・ トンネル部からの振動や低周波音の影響はないのか。

#### 回答者

(国)

- ・ 低周波音は、車両が走行するトンネル部から地上には伝わらないため、発生しないと考えている。
- ・ トンネル部からの振動は、環境影響評価において予測評価しており、首都高速の類似事例として地表面から深さ約 6m 以下のトンネルでの実測値を踏まえて、予測は 40dB を下回ると考えている。基準値を下回るとともに、人が体感しないと言われる 50dB より下回ると考えている。
- ・ 今後は、東京都の環境影響評価条例に基づく事後調査の結果を踏まえて影響を確認する。

#### 質問者

- ・ 換気所の計画箇所はどこか。換気所からの影響はないのか。

#### 回答者

(国)

- ・ 換気所は、東名ジャンクションに 1 箇所、中央ジャンクションに 2 箇所、青梅街道インターチェンジに 1 箇所、大泉ジャンクションに 1 箇所の計 5 箇所に計画している。除塵装置により浮遊粒子状物質を除去した後、換気所から上空高く吹き上げ拡散することで、地上部での換気所からの大気への影響として NO<sub>2</sub>、浮遊粒子状物質は環境基準の数百分の 1 以下になると見込んでいる。

#### 質問者

- ・ 計画地に住んでいない土地所有者などにも適切に周知が図られたのか。
- ・ 詳細な図面はもらえないのか。
- ・ 説明にあった PI の意味は何か。

#### 回答者

(国)

- ・ 説明会の周知は、開催案内の郵送、案内チラシの郵便受けへの投函、広報誌の新聞折込、市報の掲載により実施。開催案内は、計画線の外側約 10m の範囲の土地を所有している方に郵送している。
- ・ 説明会終了後、個別のご質問に応じる場を予定しており、希望者には概念図をお渡しする。
- ・ PI とは、パブリックインボルブメントの略で、計画検討にあたり広く意見を聴き、計画に反映する取り組みである。

#### 質問者

- ・ 説明会開催までの周知期間が短かすぎるのではないか。
- ・ 地質調査の結果、大深度方式が不適切だと判断された場合、計画を見直すのか。
- ・ 国幹会議の委員がPIという言葉すら知らない状況と聞いた。PIの位置づけはどうなっているのか。

#### 回答者

(国)

- ・ 外環沿線の自治体での説明会の周知期間を参考に、今回の説明会開催にあたり、約2週間の周知期間をとっている。今後は、本日の説明資料をホームページなどで公表するとともに、来年1月頃を目途にオープンハウスを開催する方向で現在調整中であり、引き続き説明の機会を設ける予定である。
- ・ 大深度地下の深さは、既存のボーリングデータとともに、今後のボーリング調査と物理探査により支持地盤を確認して決定する。
- ・ 国幹会議の中でも地元のPIの実施状況について触れられたと聞いている。外環では、これまで皆様のご意見を聴きながら検討してきた。引き続き、皆様のご意見を聴きながら検討を進めていく。

以上